

認知症施策の取組状況について

【平成 29 年度の重点的な取り組み】

●早期発見・早期対応できる体制の強化

認知症初期集中支援チームの設置により、認知症の初期段階から専門職によるチームが介入することにより、進行を抑え、なるべく地域や自宅で過ごすことができるように支援する。

→認知症初期集中支援チームの活動内容の周知と、地域での認知症への対応力向上のため、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所向けに事例検討を行う研修会を実施

平成 29 年 8 月 2 日 : 参加者 65 人

平成 20 年 10 月 10 日 : 参加者 61 人

→「認知症初期対応ガイドブック」の作成（平成 24 年 3 月に作成した「認知職医療マニュアル」を改訂）

かかりつけ医に配布して、認知症の早期発見・早期診断に活用していただけるよう、堺市医師会、認知症疾患医療センター、市で内容の検討を行い、認知症サポート医会議でも意見を聞いて作成。

●医療や介護の専門職への認知症対応力の向上

かかりつけ医や歯科医師、薬剤師、看護職等の医療職と介護職向けの研修を引き続き実施し、認知症の容態に応じた適時適切な医療・介護等が提供されることをめざす。

→認知症介護実践リーダー研修修了者へのフォローアップ研修（堺市独自に実施）

平成 29 年 10 月 24 日 : 受講者 20 人

●市民への認知症への正しい理解の促進

認知症サポーターの養成人数、学校等を含め開催職域等の拡充とともに、認知症カフェでの活躍など、認知症サポーターの様々な場面での活躍を推進する。また、認知症の理解の啓発に努める。

→「認知症の気づきチェックリスト」を含む啓発リーフレットを 75 歳以上の後期高齢者医療被保険者に大阪府後期高齢者医療広域連合より送付

平成 29 年 4 月送付 : 送付数 約 10 万件

●認知症の方の居場所づくりと家族の介護負担の軽減

高齢者の見守り、さかい見守りメールの充実と合わせて、社会福祉法人等による堺ぬくもりカフェの実施を促進し、認知症の人と家族等の介護者への支援の充実や負担軽減を図る。また、介護者を支援する「さかいお節介士」の養成と活動支援にも引き続き取り組み、介護者のレスパイトの重要性について啓発を進める。

→高齢者の見守り支援事業とさかい見守りメールについて、協力事業所として同時に登録可能とする。（平成 29 年 4 月～）

高齢者見守りネット協力者数 : 1,044 件（平成 30 年 1 月 22 日現在）

さかい見守りメール協力者数 :

民間事業所 173 団体・公的機関 72 団体・地域団体役員 153 名（平成 20 年 1 月 24 日現在）

→さかい見守りメールの利用申出の連絡先について、24 時間 365 日統一し、利用者の利便性の向上を図る。（平成 29 年 4 月～）

【各事業の取組現状】

◆認知症初期集中支援チームの活動状況について

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるよう、認知症専門医を含む専門職によるチームを設置し、認知症の発症から生活機能障害の進行に合わせて提供される医療や介護保険サービスなどの適切なサービスにつながっていない認知症の人やその家族に早期に支援を行う。

また、地域包括支援センターや地域のケアマネジャーと連携して支援にあたることにより、地域全体の認知症の対応力の向上をめざす。

相談件数：平成 27 年度 8 件 ※H28 年 1 月チーム設置

平成 28 年度 59 件

平成 29 年度 43 件（～12 月まで）

事例検討会：平成 29 年 8 月 2 日 参加者 65 人

10 月 10 日 参加者 61 人

◆平成 28 年度認知症疾患医療センターの活動について

認知症疾患医療センターは、医療・介護の関係機関等と連携を図りながら、認知症に関する鑑別診断とその初期対応、周辺症状と身体合併症の急性期治療に関する対応を行うとともに、市民及び相談機関からの専門医療相談等を実施する。また、地域において認知症の専門医療に関する研修を実施する。

認知症疾患医療センター：公益財団法人 浅香山病院（堺区）

医療法人杏和会 阪南病院（中区）

平成 28 年度相談件数：

（外来件数及び鑑別診断件数）

	外来件数	（うち鑑別 診断件数）	入院件数
公益財団法人 浅香山病院	8,023	807	324
医療法人杏和会 阪南病院	4,939	435	125
計	12,962	1,242	449

（専門医療相談件数）

電話	面接
1,128	170
1,228	120
2,356	290

◆さかい見守りメールの実施状況について

徘徊の恐れのある認知症の高齢者等の事前登録を行い、徘徊時には身体的特徴や服装等を協力者に電子メールや FAX で配信し、警察捜査の補完として、地域の方の協力を得て早期発見につなげる。

事前登録者数 : 485 人（平成 30 年 1 月 24 日現在）

見守りメール受付実績 : 114 件（平成 30 年 1 月 24 日現在）

協力機関 : 公的機関の他、自治連合協議会、校区福祉委員会、民生委員児童委員会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護保険施設、銀行、南海電車グループ、郵便局、商業施設、医薬品流通会社、運送会社、生協など

◆堺ぬくもりカフェ（認知症カフェ）の認証制度について

事業者等の自主的な事業として、認知症の方の社会参加や、そのご家族や介護者の方がレスパイト（休息）できるように支援を行う「堺ぬくもりカフェ」（認知症カフェ）として市が認証し、のぼりの提供、堺市ホームページに掲載することで、活動を応援する取り組み。

「堺ぬくもりカフェ」は、認知症の方と家族、地域住民、専門職など誰もが参加できる場で、参加者が飲み物などをのみながら、交流や情報交換、レクリエーションなどにより安心した時間を過ごせるようにする。

堺ぬくもりカフェ認証数：37 事業所（平成 29 年 12 月末現在）

◆認知症サポーターの養成について

認知症について正しく理解し偏見を持たず、認知症の方や介護者を見守る理解者となる「認知症サポーター」を養成し、認知症になっても安心して住み続けられるまちづくりをめざす。

平成 28 年度からは、認知症サポーターに堺ぬくもりカフェ（認知症カフェ）等でボランティアとして活動してもらうなど、養成講座受講後の活動につなげられるよう任意の登録制度を開始している。また、平成 28 年 6 月 1 日から、認知症地域支援推進員との連携を強化するため、認知症キャラバン・メイト事務局を堺市社会福祉協議会包括支援センター統括課に移管した。

認知症キャラバン・メイト数：760 人（平成 29 年 9 月末現在）

認知症サポーター数：52,629 人（平成 29 年 12 月 12 日現在）

※目標値（H29 年度末）：56,000 人 → 年間 9,300 人の養成をめざす。

認知症サポーター登録数：1,104 人（平成 29 年 12 月 12 日現在）

◆認知症に関する研修について

認知症の発症初期から状況に応じた認知症の方への支援体制を構築するため、高齢者が日頃から受診するかかりつけ医をはじめ、医師や歯科医師、薬剤師、看護師等の医療従事者に認知症対応力向上研修を実施する。

また、介護保険サービス等の従事者については、従事年数等に応じた段階的な認知症高齢者等の介護に関する実践的な研修を実施する。

（医療職向け研修）

研修名	H29 修了者数	累計
認知症サポート医養成研修	5 人	49 人
かかりつけ医認知症対応力向上研修	2/15 実施予定	616 人(H28 年度末)
病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修	15 人	154 人
歯科医師認知症対応力向上研修 ※H28 新設	3/15 実施予定	19 人(H28 年度末)
薬剤師認知症対応力向上研修 ※H28 新設	3/15 実施予定	25 人(H28 年度末)
看護職員認知症対応力向上研修 ※H28 新設	27 人(予定)	35 人(H28 年度末)

（介護職向け研修）

研修名	H29 修了者数	累計
認知症介護基礎研修 ※H28 新設	141 人(60 人追加予定)	504 人(H28 年度末)
認知症介護実践者研修	135 人	1,497 人
認知症介護実践リーダー研修	31 人予定	281 人(H28 年度末)
認知症介護指導者養成研修	2 人(1 人追加予定)	19 人(H28 年度末)
認知症介護指導者フォローアップ研修	2 人	14 人
認知症対応型サービス事業開設者研修	3 人(予定)	68 人(H28 年度末)
認知症対応型サービス事業管理者研修	20 人(予定)	256 人(H28 年度末)
小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	8 人(予定)	63 人(H28 年度末)